

「英語力を本気で身に付けたい人に是非勧めたい本」

口の形や舌の位置を真似するだけで英語の発音ができるようになるというキャッチーな発音本とは、いい意味で次元の違う本です。

本著以外の発音本は真似するのが比較的簡単なので、上達した気になるのかもしれませんが、いざそれらの方法で英語を話してみても、通じる英語にはなりません。口や舌のみを真似しても英語の音にはならないからです。

本著では、個々の母音や子音の発音方法に入る前に、通じる英語を話すための最重要課題として、英語の「息」と「声」をマスターすること、それには日本人が普段使わないお腹周りの筋力（インナーマッスル）を鍛える必要があると書いてあります。これには非常に共感できました。普段ネイティブと仕事することが多いのですが、彼らを観察してみると、日本人と比べて数倍低く太い声と抑揚（アクセント）のあるリズムで話しています。日本語を話す筋肉だけを使って口や舌を真似ても彼らに通じる英語にはならないことが、本著を読んでやっと理解できました。英語の「息」と「声」そしてインナーマッスルを意識しながら母音と子音を一つずつ練習していくと他の発音本では得られない効果があると思います。特に効果がわかりやすいのは日本人が苦手な/r/の発音。腹筋に力を入れて咽頭を絞ると舌がグッと後ろに引っ張られてくぼむので、自然に/r/を発音する体制ができるのです。よく日本人の/r/が中途半端な/l/になるのは、腹筋が全く使えてないからなんだと実感しました。

あと、第5章の「音の連結」のルールは、仕事で英語に苦労している人たちに是非実践をお勧めしたいです。英語を自然なスピードで話すと音が連結することにより音が添加・省略されたりして発音が変化します。この変化に対応できないことが英語を聞きとれないことに繋がっているのだと本を読んで理解できました。この変化のルールを理論的に説明してくれる本は本著以外ありません。特に会議や海外とのテレカンでの英語のリスニング力をアップしたいという人には必須の内容だと思えます。

本著は、かなり充実した内容のため（個人的な感想ですが本著の内容は、定価の数倍の価値があると思います）、決して数日読んだだけでマスターできる内容ではありません。DVDを見ながら日々地道に本の内容を実践することで、他の発音本では得られない効果が実感できるようになると思います。気軽に発音を学びたいという人には向いてないかもしれませんが、海外で通用する英語力を本気で習得したい方、仕事で英語に苦労している方たちに是非お勧めしたい一冊です。